

## 第一次世界大戦とロシア革命

### 今回学ぶこと

1914年に始まる第一次世界大戦は、人々のそれまでの価値観に大きな衝撃を与えるものであった。この戦争を契機として、ロシアでは政治体制が転換し、ソヴィエト社会主義共和国連邦（ソ連）が誕生した。社会主義体制をとったこの国家は、20世紀世界秩序の中で、資本主義世界への挑戦者として巨大な影響をおよぼした。世界戦争からソ連の形成に至る過程をたどりながら、20世紀に現れた新たな国家の歴史的な意味を考えてみよう。

### 調べておこう・覚えておこう

- 第一次世界大戦は、それ以前の戦争と比較してどのような特徴をもっていたのか、調べてみよう。
- 1917年のロシアで、二度にわたって起こった革命は、どのような経過を経たのかを調べてみよう。
- ソヴィエト社会主義共和国連邦の領域を、地図の上で確認しよう。

### 世界戦争とロシア ～総力戦体制とロシア帝国の動揺～

19世紀末のヨーロッパ列強は、世界市場や植民地獲得をめぐる対立を深め、イギリスを中心とする陣営とドイツを中心とする陣営が勢力を競い合った。列強の対立はバルカン半島の民族主義運動を激化させ、バルカン半島での民族対立は列強の対立をさらに悪化させた。列強間の緊張が高まる中で、1914年6月のサライエヴォ事件を契機に第一次世界大戦が勃発した。ヨーロッパ世界は、ドイツを中心とした同盟国側と、これに対抗する連合国側に分かれて、激しく戦った。

列強間の戦争は長期化し、軍事物資と兵力の消耗は指導者たちの予想をはるかに上回った。当初の予測を超えた新しい戦争の形態は、全ての社会層を含んだ「国民」を動員することを促した。そして、「総動員体制」を構築するために、国家権力の拡張が目指されていった。同時に参戦諸国は、国民大衆を動員するために、国民の不満を抑えて総力戦体制を維持しなければならなかった。

## 二つの革命ソヴィエト政権の成立

ロシアでは第一次世界大戦中の1917年3月、首都ペトログラードの労働者がゼネストに立ち上がり、反乱を起こした兵士たちがこれに合流した。この動きに一部の政治家が呼応して政権を掌握し、皇帝が退位してロマノフ朝は終焉した（三月革命、ロシア暦二月革命）。

新たに組織された臨時政府は、戦争を継続する方針をとったため、民衆の不満は増大した。これに対して亡命地から帰国したレーニンは、戦争中止を訴えて臨時政府と対決した。レーニンに率いられたボリシェヴィキは同年11月、首都で武装蜂起し、臨時政府を打倒した（十一月革命、ロシア暦十月革命）。

ボリシェヴィキはソヴィエト（評議会）を基礎に社会主義政権を樹立し、ドイツと休戦する一方、地主の土地を没収して農民に土地の利用権を与えた。また銀行や主要産業を国有化した。1918年3月にはドイツと単独講和を結んで、ロシアは世界戦争から離脱した。しかし国内の情勢は厳しく、ボリシェヴィキは政府に対立する憲法制定会議を解散して、ソヴィエト体制を制度化した。また、ボリシェヴィキは1918年に共産党と改称し、翌19年にはコミンテルンを設立して世界革命の実現を目指した。

## 社会主義国家の確立 ～内戦・干渉戦争からソ連形成へ～

ロシアの新たな動きに対して資本主義諸国の政府は、自国への革命運動の波及阻止とソヴィエト体制の打倒を目指して、干渉戦争を展開した。これに呼応して国内の反共産党勢力が活発化し、内戦と干渉戦争は絡み合いながら革命政権を圧迫した。しかし外国の干渉は民衆の反発を招いたうえ、革命政権も赤軍を増強して反撃に転じたため、1920年には干渉戦争の失敗が明らかになった。外国の支援を受けた反共産党勢力の敗北もこれに続いた。

世界戦争と内戦・干渉戦争によってロシアの経済状態は極度に悪化し、とくに農民の不満は危機的なまでに高まった。そこで共産党政権は、1921年に新経済政策（ネップ）に移行し、経済に資本主義的要素を導入して生産の向上をはかった。一方、内戦の勝利の過程で共産党政権は、旧ロシア帝国領のかなりの部分を再統合した。こうして1922年末、共産党が統治するロシアと他の三つのソヴィエト共和国が、ソヴィエト社会主義共和国連邦を結成した。